

## 計測会新メルマガシリーズ第2号

### チーム計測発足！

計測会が4月から支部運営を担当しています。名古屋支部を引き受ける時に、計測会守田会長以下役員の皆さんが事務局への支援を約束してくれました。計測会を盛り上げることが名古屋工業会を盛り上げることとなります。計測会をこの機会に大いに盛り上げる意味を込めて、大鹿と事務局担当の先生がた（チーム計測と言います）からの皆さんへの一言メッセージをご紹介します。皆さんに何らかの形で参加いただき、2年後のゴールを目指したいと考えています。皆さんからのご意見をお待ちしています。（大鹿）

「今年度から名古屋工業会名古屋支部の事務局の仕事を仰せつかっています。大鹿支部長を先頭に、米谷先生、木村先生、内藤先生、大鑄のチーム計測5名で一応進めていますが、計測会の皆さんのお力添え無しでは、2年間、何事も成し遂げられません。熱くご協力のほど宜しくお願い致します。」大鑄史男先生

「とても言いにくいのですが、所用のため見学研修会を欠席させていただきます。まことに申し訳ありません。」米谷昭彦先生

「“全員参加の工業会”を掲げていますので、計測会の皆様の参加は必須です。行動でのご助力 何卒よろしくお願い致します。」木村高志先生

「この2年間は、名古屋工業会名古屋支部の行事に多くの計測会関係者が出席します。もし日程が許せば、お気軽に参加いただけると良いのではないのでしょうか。皆様とお会いできることを楽しみにしています。」内藤隆先生

### あの直虎に会える？日帰りバス旅行で直虎と本田宗一郎にふれてみませんか！

名古屋支部“見学研修会”

日時：10月21日（土）8：00 栄テレビ塔北集合 18：30頃 栄解散  
主な行先：おんな城主直虎館、本田宗一郎ものづくり伝承館ほか

会費：1名 6000円（同伴家族も同じ）

募集人数：先着100名、締切：9月24日（日）

申込み先：米谷 昭彦 Email：yoneya@nitech.ac.jp TEL&FAX 兼：052-735-5380

木村 高志 Email：t-kimura@nitech.ac.jp TEL：052-735-5381

締切が迫っています。先着順ですのでお急ぎ下さい。

詳細はごきそ9-10月号25ページを参照下さい。

以下ごきそ同月号の計測会関係分の抜粋（写真文章一部変更）もご覧ください。

## 名古屋支部総会ルポ

計測会に名晶会から事務局がバトンタッチされて最初の仕事であった平成29年名古屋工業会名古屋支部総会が、平成29年6月24日14時30分より名古屋工業大学4号館1階ホールにて、出席者数86名を得て開催された。大鹿秀正 名古屋支部長の挨拶、名古屋工業会 水嶋敏夫 理事長および名古屋工業大学 鶴飼裕之 学長の来賓挨拶、昨年度の会計報告、事業報告、今年度の事業計画、予算案を承認頂いた。

この後、一般社団法人「持続可能なモノづくり・人づくり支援協会（ESD21）」理事長、元名古屋工業大学客員教授（産学連携）の黒岩恵 様より「第四次産業革命時代の持続可能なモノづくり」と題した講演を頂いた。IT技術の革新的な進展を背景に、日本のこれまでのものづくりの有り様が問われている状況の中で持続可能なモノづくりを希求するものであった。



総会会場（4号館1階ホール）

懇親会は、17時35分より浩養園スターホールにおいて立食形式で開催された。工業会の内藤克己常務理事より挨拶を頂いた。乾杯の音頭は光鯨会A20の浦野三

男様にとって頂いたが、現在96才で工業会では最高齢でありながら、かくしゃくとしたお姿に感動を覚えると共にそうありたいとの思いを強くした。終盤、名古屋工業大学理事で副学長の内匠逸先生、名古屋工業大学副学長の犬塚信博先生の御挨拶を頂き、大鹿秀正名古屋支部長の一本締めで会は閉じられた。久しぶりに再会された方々もおられ、会場の至る所で思い出話が満開状態であったように思う。出席者は75名であった。

文責：大鑄史男

## チームワークと社内駅伝の思い出あれこれ

平成 29 年度名古屋工業会名古屋支部長として総会挨拶で、「チームワークで同窓会のあるべき姿を絵にして、ゴールを目指したい」と宣言しました。

### チームワークについて

名工大の大先輩 大野耐一氏が「トヨタ生産方式」（1978 年初版）の中で、チームワークについて、次のように触れておられた。「チームスポーツの勝負を左右するカギはチームワークである。」大野大先輩は、チームワークについて名言をいくつか残されている。

また、計測工学科設立時の恩師依田浩教授のオペレーションズ・リサーチの教科書「技術者の OR 入門」（1967 年初版）には、「問題の本質を正しくとらえ、定式化・モデル化を行うには、問題に精通した人、数学の知識を持つ人など色々な専門分野の人々のチームワークが必要である。」と書かれている。

計測工学科の第 1 回生で、単科会である計測会の設立に尽力された名工大戸苺吉孝教授も依田先生の教え子である。その戸苺先生が昨年亡くなられた事が、“チーム計測”メンバー一丸となって支部運営を引き受けるきっかけになったことに、“計測”の絆の強さを感じる。

### 駅伝で学んだこと

仕事と駅伝の共通点は

- (1) 一人でできる範囲に限られている
- (2) ゴールがあるから面白い
- (3) 甘えと過激は怪我の元 などがある。

2014 年 12 月に、64 歳 11 ヶ月の選手としてラストランを楽しませてもらったことが、自慢である。社内駅伝チームワークの経験は、日本自動車工業会で日産やホンダの方などと一緒に仕事をする上で、プラスになったことを、付け加えておきたい。

## たすきリレーの失敗から学ぶ

「襷は受け取るものが合図をすること」と先輩の教えを後輩に伝えてきた筆者が、合図ができないとう初歩的な失敗をした。本人が自ら体験するまでは、本当に理解することは出来ないのかもしれない。先生や先輩から教えられたことの本質に気づくのは、そのテーマと同じ状況に遭遇して失敗した時ではなかろうか。

依田先生の「問題の本質を正しくとらえること」と、大野大先輩の「情報に隠されている本質にせまること」の教えが益々大切になると思う。



平成 28 年 12 月走る選手と応援者（トヨタスポーツセンター）

記：大鹿秀正